

る。先住民として土地の権利を要求したものの、それが認められることで売買が容易になり、土地の外部流出がかえって促進されるという皮肉な結果が見え始めている。

〔引用文献〕 GONZALES, M., De GROOF, A., NOLTEN, M. & ROTMENSEN, G.J. (1988) Shifting cultivation of the Murut in Sabah, Malaysia. A socio-economic and physical study in 7 selected villages in Mukim Nabawan. Department of Geography of Developing Countries. Geographical Institute. Netherlands
HASHIM, A. (1995) Faktor-faktor yang menentukan kejayaan atau kemunduran Sekim Penempatan Karamatoi. Research for diploma in Faculty of Administration and Law in ITM, Sabah
MARSH, C. & GAIT, B. (1988) Effects of logging on rural communities : A comparative study of two villages in Ulu Kinabatangan. Sabah Society Journal 8 (4) : 394~501
宮国 淳 (1999) 『サバ州における森林開発と地域社会—焼畑耕作民パルアン・ムルットの土地保有制度の変化を中心に—』 筑波大学博士号取得論文

図書紹介.....

◎未来のためのチーク (KASHIO, M. & K. WHITE, ed. 1998. Teak for the Future : Proceedings of the Second Regional Seminar on Teak. 29 May~3 June, 1995, Yangon, Myanmar, TEAKNET Publication No. 1, RAPA Publication : 1998/5, 249 pp.)

東南アジア原産のチークは、組織的な管理について長い伝統をもっている。ミャンマーでは、近代の森林管理システムはおよそ 140 年前にチークをもって開始され、それからの約 40 年にわたって、そのシステムはインドおよびタイに広められたという。このような事情を背景にして、第 1 回のチークセミナーが 1991 年 3 月に中国の Guangzhou (広州) で開催されたが、それから 4 年を経過した 1995 年、11 か国からの 45 名が参加して、ミャンマーのヤンゴンで第 2 回が開かれた。第 1 回セミナーの成果の一つは、チークについての地域ネットワーク、TEAKNET で、これは当時 RAPA におられ、不慮の事故に遭われた故 Dr. Rao の発意によるものであったという。ここで紹介する第 2 回のプロシーディングズは、討議の記録、主題論文、国別プロフィール、TEAKNET 紹介の 4 部からなり、第 2 部には天然林管理、人工林の管理、売買と市場のヘッジングのもとに 10 篇の報文が掲載されており、第 3 部ではブータン、中国、インドネシア、ラオス、マレーシア、タイ、ヴェトナムの各国におけるチーク人工林あるいは天然林の施業、資源状況などが紹介されている。また、本書の巻末には、第 1 回セミナーの要約も添えられている。なお、TEAKNET 事務局はミャンマーの林業省森林局におかれている。(浅川澄彦)